



コメント：今年もキレイに咲きました！春が来ました！

## 〈赤磐医師会病院基本理念〉

- ❦ 心のかよう、温かみのある医療の提供に努めます。
- ❦ 安全で質の高い医療を提供し、信頼される病院を目指します。
- ❦ かかりつけ医との連携を深め、地域と共にある病院を目指します。



赤磐医師会病院



# 新年度を迎えて

公益社団法人赤磐医師会 会長 滝澤 貴昭



赤磐医師会の活動についてご紹介させていただきます。会員数は約80名で、半数は病院・診療所の開設者、半数はそれらの勤務医です。17年前までの旧赤磐郡、現在の赤磐市と岡山市東区瀬戸町の医療機関にて構成されています。医師会という存在は、世間的には政治的圧力団体のように負の側面で捉えられることも多いのですが、地方の医師会にそのような力はなく、住民の皆様の健康管理と病気・介護への不安などについて、行政と話し合いながら政策提言をする立場にあります。しかし実際には、それ以上にボランティア的な活動もとてもたくさんあるので、その一端を紹介させていただきます。

まず子供さんが生まれると、乳幼児検診を受けていただきます。検診は赤磐市内の小児科専門医に依頼があり、赤磐市では出務医師3名が年間64回をこなしています。岡山市東区でも3名がそれぞれ年に4回出務しています。もう少し成長されると入園時・入学時および年一回の検診が義務付けられています。これらの検診には内科医・小児科医のみではなく、眼科医や耳鼻咽喉科医も出務しています。赤磐医師会では保育園4・幼稚園6・子ども園3・小学校14・中学校6・高校3ヶ所などの検診出務医の推薦を行っており、その園医・校医はインフルエンザなどの際の学級閉鎖の判断などの相談とともに、教職員の健康管理の指導も行っています。

従業員50人未満の中小企業には産業医がいません。それらの事業所を対象に厚生労働省の下部組織として地域産業保健センターという制度があり、赤磐市・瀬戸町・備前市・和気町を管轄する東備地域産業保健センターが赤磐医師会事務局内に設置されています。専従の職員1名と赤磐医師会会員9名・和気医師会会員10名が、事業所の監視・見回りや健康診断結果についての指導、脳・心臓疾患のリスクの高い方やメンタルヘルスの問題を抱える方などの健康相談にあたっています。健康相談会は年に170回にも及び、県内のセンターでは最も活発に活動しています。

高齢者のためには介護保険制度がありますが、介護認定を行う審査会にも医師会から延べ17名が参加しており、年間約6回ずつの出務です。さらに数年前からは認知症でトラブルを抱えている方達の相談が地域包括ケアセンターに寄せられた際に、それらについて複数の行政職員が関わり、その上で厚生労働省が認定した認知症サポート医の資格を有する医師会員が参加した会議「認知症初期集中支援チーム員会議」が年に4回開催され熱心に改善策が検討されています。毎回2名ずつのサポート医が交代で出席しています。最近では予防接種健康被害調査委員会も年に2~3回程度開催されるようになり、主に新型コロナワクチン接種後遺症が疑われる方々の書類を厚生労働省の厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会)に提出するか否かの話し合いを行っています。赤磐市では死亡や高度の後遺症が残った方など、今までに6例が議題に上がりました。2月には、この制度の仕組みや申請について行政と一緒に、研修会を実施しました。

休日当番医について、内科系に加えて外科系当番医も設けられているところは県内でも少ないので、赤磐市内のみではなく近隣の市町からの急患にも対応しています。さて開業医には代休という考え方はないので、内科系・外科系ともに年間3~4回程度自分たちの休日を返上して出務しています。インフルエンザシーズンや年末年始など、内科系当番医では午後5時閉鎖の予定が午後9時頃まで診療が延長して、片付けを終えると深夜になってしまうこともあります。

幸い赤磐医師会では新規開業や親子の承継がスムーズに進むことにより医療機関数が維持できていますが、岡山・倉敷の市街地を除いては地方での開業医数は減少し続けています。市街地では、往診・訪問診療に特化した診療所もできていますが、地方で訪問診療をしている医師の平均年齢は68歳という統計があります。国が進めている、

病院ではなく自宅で亡くなることを選択しようという考え方は理想ですが、それを支える在宅での看取りに対応できる医師はどんどん減っていく可能性があるのです。また地域によっては少子化のため、学校医の負担などがとても大きくなっています。午前中の診療を休んだうえで出務して、わずか20~30人程度の児童の検診にあたることもとても非効率的です。複数の学校の児童・生徒が集まっていたりとか、昼休みの一部や午後の時間を検診に充てるとか融通をもった運用をしていかないと、これらの制度が今後も継続できるという保障はありません。将来的には、へき地診療所を維持するよりも、デマンドタクシーなどの整備により高齢者が設備の充実した医療機関を受診しやすくする方が、望ましいかもしれません。インターネットを使った遠隔オンライン診療も期待されますが、高齢者がITに強いとは言えず、公民館などに複数名が集まってもらい、訪問看護師の支援により医師がオンライン診療を行い、薬剤師が薬の宅配と訪問指導することなども検討が必要でしょう。

赤磐医師会の理事会には、毎月赤磐市の幹部職員の方々に出席していただき情報交換・意見交換をしています。また現状の問題点や、将来構想について、年に一回市長・保健福祉部長・教育委員会・消防本部長・複数の担当課長など行政の中核を担う方々と医師会理事数名が一堂に会して具体的な対策について話し合いを行う会合も持っています。その他にも、年に1~2回、住民代表者・行政担当者・医師会担当理事が集い、健康づくり・医療福祉などについて話し合われる会議も10以上開かれています。

住民の皆様にも、今受けておられる医療や検診などが当たり前で維持されているのではなく、医師たちのボランティア精神や時間外労働により支えられている一面もあっていただければ幸いです。行政に予算が乏しいことは熟知していますので、予算を増やしていただくことを期待するのではなく、行政の方々と住民の皆様が少しずつ歩み寄っていただくことにより、現状の制度を維持できればと願っております。住民の皆様におかれましては、医師会に対して前向きな提言などがありましたら、医師会事務局までご意見をお寄せいただければありがたく存じます。



## 新任の御挨拶

事務部長 柳野 伸太郎

令和6年4月1日付けで事務部長を拝命しました柳野です。当院の開院準備から職務に携わられた西中部長の後を受け継ぐということで、とても重責を感じておりますが、医師会立の病院としての役割を果たしていくための一員として、専心努めて参る所存でございます。

医療機関を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの影響による経営圧迫など、厳しさが増すばかりですが、職員が少しでも働きやすい環境にしていくことと、医師会病院としての地域への役割を果たしていくことを基本に考え、安定した病院経営を継続していきたいと思っています。

また、昭和57年に当院開設当初に建設された外来棟を含む東館・西館が、築42年を経過しており、老朽化が著しくなっています。これからは建替えに向けた準備が本格的になりますが、皆様にとって利用しやすい施設になるように、職員一丸となって進めて参ります。

まだまだ不慣れなところが多く、周りの方々に助けられながら日々の課題に取り組んでいますが、赤磐医師会病院の理念に掲げられています「心のかよう、温かみのある医療の提供」「安全で質の高い医療を提供し、信頼される病院」「かかりつけ医との連携を深め、地域とともにある病院」に向けて、業務に励んで参りますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 『ロコモティブシンドローム』ってなに？

年齢を重ねると、筋力が弱くなったり骨粗鬆症や関節の病気になりやすいです。これにより、身体が衰えて将来寝たきりや介護が必要となる危険性が高まる状態を『ロコモティブシンドローム(通称:ロコモ)』と言います。

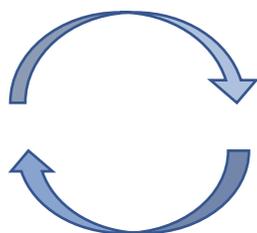
ロコモを予防する運動をして、健康で自立した生活を送りましょう。



## ①スクワット：脚全体の筋力を高める効果があります。

### 方法

1. 肩幅より少し広く足を広げて立つ。
2. 腰を後ろに引きながら、ゆっくり膝を曲げて、またゆっくり元の姿勢に戻る。  
(5秒で下がり、5秒で戻るペース)



膝は90°以上曲げないように！

足は肩幅くらいに広げる！

☆立位が不安定な方は、机に手をつけてイスからの立ち座りをゆっくり行いましょう。



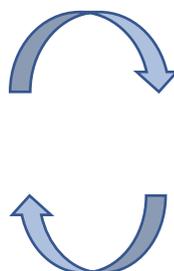
## ②かかと上げ：ふくらはぎの力をきたえて、転倒予防に繋がります。

### 方法

足をやや開いて立ち、かかとをゆっくり上げて、ゆっくり下げる。

☆支えが必要な場合は、壁や机に手をつけて行いましょう。

☆かかとは軽く上げる程度で良いです。



1セット:10回～ ● 1日:1～3セット

呼吸を整えながら、無理のないよう続けてみましょう！

リハビリテーション科

# 令和5年度看護研究発表会

2月29日 令和5年度看護研究発表会を 講師の岡山県立大学 佐々木新介准教授をお迎えし開催しました。

毎年2つの部署が1年かけて研究し、まとめて発表を行っています。今年度は

**整形外科手術時における手術室スタッフに及ぼす水晶体被曝の影響  
～防護メガネ使用の徹底に向けて～**

手術室 鈴木 由希子 藤田 裕美

**医療型療養病棟でのデスカンファレンスの分析**

西3階病棟 和田 雅恵 高津佐 珠美

2題の発表がありました。

参加者は他部署での研究や業務内容に触れ、自部署での業務改善や看護実践を振り返る良い機会となりました。講師の先生には年間を通じてご指導いただき、講評では資料のまとめ方や発表原稿の作り方など具体的な説明があり、今後の看護研究へのヒントをいただきました。

これからも忙しい業務の中、研究を続け、看護の質の向上に努めていきたいと思えます。



## 消防訓練

※大規模地震発生に伴う消防訓練の実施  
(2023年11月29日)

今回の消防訓練は、大規模地震の発生により、院内厨房にて火災が発生したとの想定で、地震発生時の初期対応や火災発生時における消火器・消火栓を使用しての初期消火活動及び避難誘導訓練・当院の消火設備の確認・使用要領等の習得を目的として実施しました。

参加した職員は真剣に訓練に取り組んでいました。

火災受信盤や非常ベル、消火器の位置、消火栓の起動、操作方法など改めて確認し、実際に消火器、消火栓を使用した放水訓練等も行い貴重な体験が出来たと思えます。

地震・火災・豪雨災害は前触れもなく突然やってくるため、災害に直面した際、普段からの訓練通りに、外に出るまでの避難経路の確認や、非常口の把握、災害にあっしまった場合取るべき行動、そのような一つ一つの事を知っているかどうか、生存率を大きく分けることとなります。

訓練を繰り返し行う事で個々の判断が向上し、万一の時の行動に大きく差が出ると思えますので、今後も色々な場面を想定した訓練が必要と考えています。

又、当院は高齢の患者さんも多く、実際の災害現場にあっちは大混乱の中での避難誘導が予想されますので、災害発生時の有事即応体制・防災設備・資機材の点検整備を日頃から維持管理をする必要性を強く感じました。



# 赤磐医師会病院 外来診療・検査担当表

令和6年4月1日より

	月	火	水	木	金	土
外来診療・健康診断	内科一診	柚木 直子	平井 通雄	柚木 直子	平井 通雄	藤岡 紘平
	内科二診	沼本 紘輝	中村 真	吉井 将哲	瀧川 雄貴	担当医
	内科三診	高橋 北斗	栗原 淳		川本 里美	
	内科四診					
	内科午前 (予約外来)	灘 隆宏 (予約制)	佐藤 敦彦 (予約制)	友田 純 (予約制)		
	内科午後 (予約外来)	佐藤 敦彦 (予約制)				
	外科	片岡 正文	宮木 功次	荒木 宏之 仁熊 健文	片岡 正文	宮木 功次 蓮岡 英明(第3)
	整形外科	片山 信昭	*1 金光 俊	片山 信昭		片山 信昭 金光 俊
	リウマチ外来 (予約・紹介制)		*2 片山 信昭			
	上肢・手の外科 (予約制)				*3 今谷 潤也	
	泌尿器科			*4 渡部 智文		渡邊 豊彦
	呼吸器内科 (予約・紹介制)		工藤健一郎	藤原 慶一	松尾 潔	
	糖尿病内科 (予約・紹介制)	*5 大宮 照明	*5 岡崎 悟	*5 前田 英紀		前田 英紀
	循環器内科 (予約・紹介制)	兼澤 弥咲	*6 浅田早央 赤木 達		*7 赤木 達	
腎臓内科 (予約・紹介制)		大宮 照明				
膠原病内科 (予約・紹介制)		*8 勝山 恵理				
脳神経内科 (予約制)				石田 将大		
健康診断	平井 通雄	草地 省蔵	草地 省蔵	担当医	友田 純	担当医 (第1・3)

## 診療受付時間：午前8時30分～午前11時

整形外科	*1 火曜日	午後1時～午後3時
リウマチ外来	*2 火曜日	午後1時～午後3時
上肢・手の外科	*3 木曜日	午前9時30分～午前11時
泌尿器科	*4 水曜日	午前8時30分～午前12時
糖尿病内科	*5 月・火・水曜日	午後2時～午後4時
循環器内科	*6 火曜日	午前8時30分～午前11時 午後2時～午後4時
	*7 木曜日	午前8時30分～午前11時 午後1時30分～午後4時
膠原病内科	*8 火曜日	午後2時～午後4時

※都合により休診になることがあります。



## あとかき

- コ ミュニケーション(対話)
- ス メール(笑顔)
- モ ビリティ(機敏性)
- ス キル(技術)

病院東側、砂川沿いの桜並木が美しい季節がやってきました。

今年度も患者様に寄り添った、温かみのある、安全で質の高い医療の提供に努めて参ります。(編集部：能登原)

## 地域医療支援病院 赤磐医師会病院

〒709-0816 岡山県赤磐市下市187-1  
 TEL 086-955-6688 (代) FAX 086-955-4946  
 HP <https://www.akaiwa-mah.jp/>  
 発行日 令和6年4月15日

